式辞

今からでも決して遅くはない」私の好きな言葉のひとつです。

一方で　人間は後悔する生き物である」と云う言葉に苦笑いした記憶がありますが、　あの時ああすればとかこうすべきであったとか」そう思うのであれば気分一新、今直ぐ新しい道を探し始め、そして歩み始めればいいのですが、　もう手遅れ・・・・」等といつまでも躊躇してしまう悲しい現実。

真面目な人間ほど過去の優柔不断な態度や判断ミスに縛られて、次の一歩を踏み出せない負の連鎖に陥りがちです。自分の過去も歴史の過去も、失敗は未来に繋がる教訓として現在に生かすことが人間の英知であり、マイナス思考に支配されてはなりません。自分なりにしっかりと考え、少しの勇気さえあれば前に進めるはずであり、場合によっては歩きながら考えることも、優れた選択肢の一つなのかもしれません。

まずは、第一歩を踏み出すことが重要なのです。

そのことで私の脳裏をよぎるのが、地図好きな人間ならば誰もが知っている江戸時代の異才、伊能忠敬です。齢５５歳にして一念発起、彼は自ら日本全国を測量行脚して、現代でも通用する日本地図の完成に情熱を注いだ。そのチャレンジ精神に充ちた生き方には感服させられます。当時の交通事情からして、その旅は苦しく厳しい道のりであったことは容易に想像できますが、漠然とした使命感を支えとして偶然目にする様々な美しい光景と、未知が既知に変わる喜びを感じながら、実はとても楽しい時間を過ごしていたに違いないと私は確信しています。　願望を、ひと時も忘れぬよう、心掛けていれば、必ず成し遂げられる」。これは彼の言葉ですが、測量にかける情熱と云うより、強い意志が必然性を帯びると何事も成就すると云う人生哲学として語られている気がしてなりません。

　さて地理学で立地論と云う研究分野があり、例えば水や食料の確保ができ安全性が担保されると集落が立地していく等、主として因果律に基づいた必然性の確認と云う方法論で成り立ちますが、この必然性に関し

て視点を変えて君たちが修猷を目指した理由や背景を考えると、勉強や部活動や学校行事に集中できる環境が整っており、安心して充実した高校生活を満喫できそうな期待感を抱いたからに違いなく、そこには修猷を選択するに至った必然性を感じ取ることができます。しかし文武両道を掲げ学校行事にも積極的に取り組めば限られた時間との戦いは壮絶なものとなり、様々な向かい風に晒され苦しむことになります。

その実体験を君たちはこの2年間乃至は1年間重ねてきた訳ですが、経験則として厳しい逆風であってもやがて向かい風は止むものであり追い風になることもあり、気が付くとまた向かい風と云う目まぐるしい変化、その不規則な変化の繰り返しが考える力をつけさせ、人間として成長するチャンスになることを君たちは、既に気がついているはずです。

修猷に入学し、偶然同じクラスになった友との出会いとその関係性が、充実感や幸福感更には自らの成長を実感するにつれ、単純に偶然としては片付けられな

い不思議な感覚として意識されることがあるはずですが、その不思議な感覚と云うものが私の中では　必然」と云う言葉に置き換えられ、充実した時間経過のみが為しうる、偶然と必然が一体化する神業のような融合、即ちコインの表裏のように不可分な関係となる状態なのだと感じています。是非君たちには、その様な状態を感じさせる時間をこれからも過ごすことを望みますが、そのためにも前を向き自らが描く夢をひと時も忘れぬよう、何事にもチャレンジしていく姿勢を貫かねばなりません。そして、そのチャレンジとは、必ずしも誰もが認める大きなチャレンジである必要はなく、自分にだけにしか分からない小さなチャレンジでも構わないのです。否、小さなチャレンジの連続にこそ深い意味があるのに違いありません。

今この話を聞いて、　私には夢が無い」と思ったあなた。それは無いのではなく今は見えていないだけなのです。前を向きチャレンジし続けていれば必ず見えてきます。そして主体的に考えチャレンジする者のみに与えられるのが偶然という名のチャンスであり、そ

のチャンスを生かすか無駄にするかは、あなた次第なのです。

後悔するくらいなら、例え回り道でもいいから、今からでも決して遅くはない、勇気を出して一歩を踏み出すべきなのです。

君たちのその姿を期待して、式辞とします。